TEAM BUILDING

Team Building Japan

「そうじゃないだろう。ほら、こうすればいい。みんなこれに従ってくれ」

しかし、できると思っていた方法があっさりだめになる。

頭と体をフル回転させて、やり方のわからない状況に対応していくなかで、今まで考えたこともなかった方法でチームで課題を達成していく。

入ったばかりの新入社員の小さな気遣いがチームを盛り上げたり、
普段やる気がないかと思われていたメンバーの言葉にみんなが心をひとつにしていく。
そんな状況を目の当たりにして上司も考え直す。

「そうか。みんな意外な一面があるんだな。次のプロジェクトは、あいつに頼むか。」

普段仕事場で言葉に出せない想い。出さない想い。それは長い時間がたつほど、隠れて見えなくなってしまう。
それを振り返って見つけていく。そんな場所を私たちは創ります。

心が動くからチームが動く

変化を
超えていく力

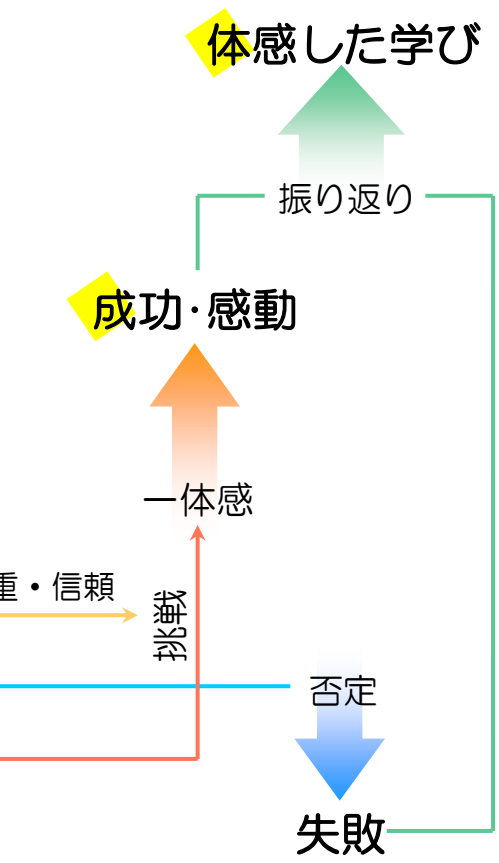
これまでの時代、一人一人が「正解」を勉強すれば生きてくることができました。正解を勉強するには座学の研修が向いています。しかし、この変化の激しい時代、そのような「正解」はなくなってきました。今求められているのは、正解のない世界の中で、変化に対応する力です。また、一人一人がその力を身につけたところで、組織としてまったくうまくいかない場合も多くあります。そのためにチームワークや、リーダーシップといった言葉が叫ばれています。

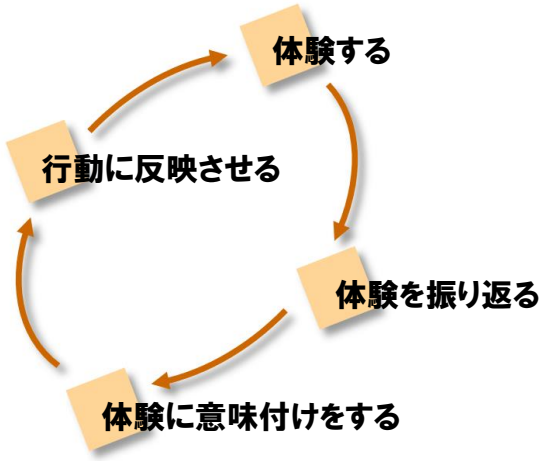
しかし、そのような力を身につけるために座学の研修を受けたところで、ほとんどうまく行きません。そこで今注目されているのが体験学習プログラムです。

体験学習プログラムは1970年代から盛んになり、企業や学校での指導者養成などに使われてきたものです。その中では精神的にも肉体的にも厳しさを感じるアクティビティにチームで挑戦し、参加者が主体的に学んでいきます。

実際のアクティビティでは難しい課題に失敗し、「無理無理」という声が上がることもあります。あきらめたいという雰囲気の中で、誰かが「もう一回やってみようよ」という声を上げ、葛藤を繰り返しながら、挑戦を繰り返します。そんな中でお互いを尊重し、助け合ううちに思いがけないアイディアなども生まれ、成し遂げることができます。できないと思っていたことができたとき、みなが感動して盛り上がります。

その出来事を振り返るなかで、「どんな時にチームは、また自分は夢中になるのか？」「本気で成果を上げるために組織内コミュニケーションはどうあるべきか？」「自分がリーダーとしてどうあるべきか？」それぞれがいろいろなことに気づいていきます。それは言葉にするととてもシンプルであたり前なものかもしれません。しかし、自分たちの体験に裏付けされた知恵は外から与えられた知識とは比べ物にならない価値となります。そしてその価値は組織として大きな変化に対応する力となっていきます。





Result Team Building Program

チームビルディングジャパン設立経緯

代表取締役
河村　甚

1998年からアメリカの教育プログラムに関わり“チームビルディング”という考え方やその手法を知りました。

その後日本のイベントの制作会社で主に海外での報奨イベントの制作に携わりましたが、楽しいだけのプログラムを作る中で、「人々が夢中で楽しんで、かつ本当にその人たちの成長につながる仕事がしたい！」という想いを持つようになりました。

海外では当たり前にチームビルディングの専門会社がたくさんあるのに、日本では「チームビルディング」という言葉も通じませんでした。その状況を見て日本でチームビルディングを広めていく会社、「チームビルディングジャパン」を立ち上げました。

We Believe in “Us”

チームビルディングジャパンは“私たち”を信じています。
“私たち”とはプログラムの参加者も、そのプログラムを実施するまでにかかわったご担当者様も、すべて含む私たちです。
“私たち”を信じることから始まる３つのことを大切にしています。

一人一人の意志を信じる

「この研修の成果を決めるのは誰ですか？」研修の1日目にファシリテーターが参加メンバーに問いかけます。参加者自身が自らの研修目標を立てることで、参加意識を高めます。目標を達成する意志が、人をそこに導くからです。私たちはその意志を受け止めるために、本気で参加者と向き合います。

チームだから創り出せる

自分の気になったところに手を出したメンバーに、誰かが余計なことをしないでと声を掛ける。そんなことがあった後ファシリテーターは「本当に皆さんそれでいいのですか？」となげかけます。
”頭の良い”誰かが引っ張るのではなく、一人一人の関わりを大切にできるとき、雰囲気は変わり、チーム全員が本気で考え出します。そのときどんなチームもよりよい結果を出せることを私たちは知っています。

私たちが実践するから伝えられる

「運営方法は任せます」プログラム実施前のファシリテーター同士での打ち合わせで出てくる言葉です。
この言葉は気軽に発しているのではなく、ファシリテーター同士が対話をし、意識合わせができているからこそ出てきます。
私たちがチームとしてお互いを信頼し、プログラムに望むからこそ、参加者にチームを創っていく意味を伝えられると信じています。

ファシリテーター
瀬田 すみ恵

チームの持つ可能性を

私たちファシリテーターはプログラムの中で、チームメンバー同士の関わり方を注意して見ていきます。
現実の縮図が現れるプログラムの中で、チームメンバー同士関わりを見えるようにしていくと、メンバーが互いに相手の良さを見つけあい、新しい関わり方を見つけていきます。
そうすると、一人一人が主体的にしっかりと役割や責任を取りはじめ、チームで成果が出始めるんです。
それを見ていて感じるのは、良さや強みというのは人との関わりの中で気づき、生まれるということです。人との関わりというのは、ときに煩わしいこともあります。
それでも、わたしはチームの持つ可能性を信じています。

Our Philosophy Team Building Program

Our Programs Team Building Program

会社全体が成果の出せるチームになる

テーマ別研修

雑談はよくあり、それなりに仲は良い。しかし、数値目標を掲げても、**責任を負うのをさけ、自分から考えて動こうとしない。**現在の延長で問題ないと考えている。そんな会社の雰囲気をどうにかしたい。

Solution

組織横断型のチームを組み、**誰も解決方法を知らない課題**に取り組む力を養う。**現実の縮図を感じる課題**をチームでいくつも挑戦し、ひとつずつ**なぜ普段の仕事でできないのか**振り返り、反映していく。本当のチームワークの源泉が身につく。

Result

お互いの意外な考え方や、能力を知り、**新しいかたちでみながコミットする目標**が立てられ、係りを超えた連携が始まる。
また、**上司、部下がおたがいに歩み寄り**成果を上げるために努力を始める。

階層に特化した学び

階層別研修

どんなに言っても指示待ちの部下に悩む管理職層。納期も迫ると**トップダウン型で指示**をせざるを得ない。**状況がめまぐるしく変化**する中どうして良いのか分からない。そんな管理職層に気づきを与えたい。

Solution

部下の視点に立つこと体感し、現実を振り返る。どんな時に人は**夢中になって行動**し、どんなことがあると**モチベーションが上がる**のか。**同じレベルで考える管理職層と共に考え**納得出来る答えにたどり着く。

Result

社内に同じ悩みを持つ繋がりが出来、部下に任せ、**成長を見守る時の心構え**ができる。より大きな変化を乗り越えるのにどんな仕組みや考え方が必要かを**考え始める。**

モチベーションを創り出す

チームビルディング・イベント

毎年部門で親睦イベントをやっているが盛り上がらず、交流も広がらない。会社としてただ遊ぶだけのイベントをやるのも難しいし、それをやっても、意味があるか分からない。どうせやるなら**意味のあるもの**をやりたい。

Solution

暗号を解きながら、広いフィールドの中写真を集めるプログラムで、他のチームと競い合う。**みなの新しい一面**を見つけながら、**一筋縄ではいかないプログラム**にみなで**夢中になり**写真で思い出を語り合う関係になる。

Result

プログラムの中の答えの分からなかった謎解きが、会話のきっかけとなる。お互いそれを体験したという感覚も強く持ち、そこから**普段のグループを越えた交流**が広がる。

組織を強くする

私たちのプログラムは心が動く本気の体験と、本質を掘り下げる対話で構成されます。
この上ない達成感や、悔しさがわきあがってくるような質の高い体験をするから、自分たちで見つけた学びを自分たちのものとして持ち帰る質の高い対話ができます。
体験と対話を掛け合わせ、相乗効果を生み出すのが私たちの体験と対話の活かし方です。

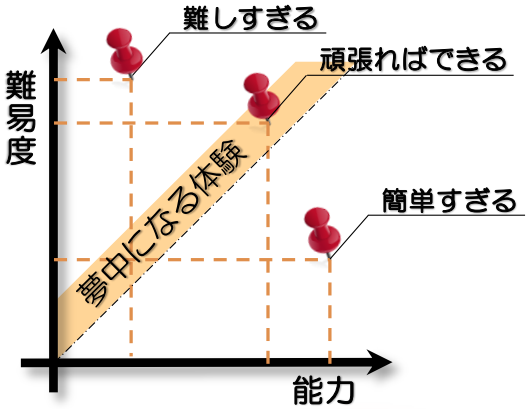
Our Method Team Building Program

質の高い体験を創り出す

質の高い体験を創り出すためには、人が夢中になる必要な条件を整え、プログラムの中で変化する参加者の感情を常に観察してルールや、実施内容を調整しながらプログラムを運営していきます。

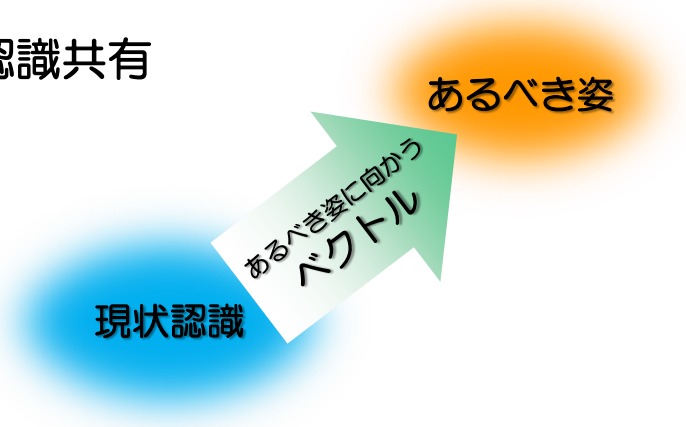
～人が夢中になる４つの条件～

- 簡単すぎず、難しすぎず、自分の能力の少し上
- 何を為すのか、ゴールが明確である
- ゴールに近づくための手段を自分でコントロールできる
- うまく行っているのかどうか、常に把握する事が出来る



体験と対話でつくる組織の認識共有

組織をつくっていくために、私たちは3つの認識共有を大切にしています。
財務状況、営業成績の現状などだけではなく、メンバーの思いも含めた現状認識の共有。自分たちの組織がどうあるべきなのか(あるべき姿)の共有。
深いレベルでその二つを共有するからこそ、メンバーの思いも、具体的なアクションプランもベクトルがそろい力強い継続的な組織の変容につながっていきます。



シニアファシリテーター
吉田　和美

「あなた達ならできる！」

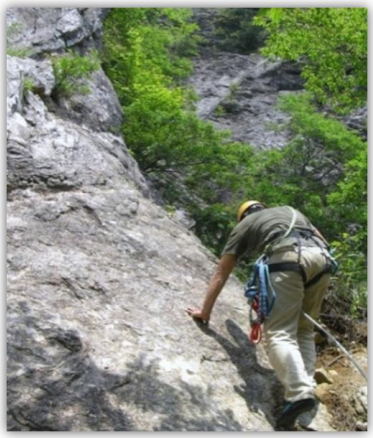
チームが停滞しあきらめかけた時、投げ掛ける一言。
その一言にはファシリテーターの経験と、繊細な判断が含まれています。
どこまでなら乗り超えられるのか。どこまで可能性にかけられるのか。
安全を確保できる限界はどこか。それを捉えた上で、可能性と本気で取り組む力を信じて声をかけます。
そうして、人が力を振り絞って行動するときはファシリテーターにとっても感動する瞬間です。皆さんと感動する瞬間をともにつくるのを楽しみにしています。

チームビルディングジャパンが選ばれる理由

Our Confidence Team Building Program

経験豊富なファシリテーター達

チームビルディングジャパンのファシリテーターはさまざまな分野、企業で体験学習アクティビティの豊富な運営経験を持ちます。
そんなファシリテーターがいる理由は、チームビルディングジャパンが運営メンバーのチームワークを信じ、大切にしているからです。参加者も、運営メンバーも共に感動できるプログラムをいくつもつくってこられたからこそ、人が集まりより良いチームワークを生み出せます。



柔軟に変化させられるプログラム

経験豊富なファシリテーターが集まるからこそ、プログラムを柔軟に変化させることができます。
その時々の参加者の体調、気分、集中力により、同じアクティビティをやっても学ぶことは大きく異なります。どの課題を、どう運営すれば効果的か瞬時に判断できるからこそ、チームの状況に応じた最適なプログラムを運営でき、チームにとって必要なルールや、プログラムを取り入れていくことができます。

「楽しい！」をプロデュースする力

人材育成を目的としたプログラムだけではなく、とにかく楽しく盛り上げるイベントの運営ノウハウも持っているのがチームビルディングジャパンです。
チームビルディングプログラムには達成感も楽しさも混在し、だからこそ盛り上がり、深まります。
深い学びを狙った研修プログラムも、気軽にできて思い切り盛り上がるイベント型プログラムもニーズに合わせてご用意できます。

オリエンテーリングの要素を組み込んだ
“フォトスカベンジャーハント”

チームビルディングジャパンの体験学習プログラム

1970年代からアメリカやイギリスで、開発されてきた体験学習プログラムを元としています。体験学習プログラムは欧米での指導者の養成、学校や企業での研修のために活用されてきました。チームビルディングジャパンではファシリテーターの経験を元に日本人や日本のグローバル企業にとって成果が出やすいように改良を重ねてきたものを提供しています。

会社概要

■会社名　株式会社チームビルディングジャパン
■代表者　代表取締役　河村 甚
■所在地　〒101-0062
東京都千代田区神田駿河台2-11-16さいかち坂ビル403
■創立　2006年8月21日

問合せ先

Team Building Japan

■電話番号　03-5577-3938
■FAX番号　03-5577-3987
■URL　http://www.teambuildingjapan.com/
■E-Mail　tbj@teambuildingjapan.com

チームビルディング　検索